

2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会幹事会デジタルサイネージワーキンググループ
高度な映像配信サービスサブワーキンググループ（第1回）

1 日 時

平成27年10月8日（木）14:30～15:00

2 場 所

中央合同庁舎2号館11階 総務省 1101会議室

3 出席者

（1）構成員

吉沢主査、宇佐美構成員、内山構成員、落合構成員、小笠原構成員、鈴木構成員、
廣田構成員、橋本構成員、森田構成員、若井構成員、安井構成員、小金澤構成員代理

（2）総務省

山田情報通信国際戦略局長、巻口参事官、小笠原情報通信政策課長、
今川情報流通振興課長、飯村情報通信政策課課長補佐、梶原情報流通振興課課長補佐

4 議事

（1）今後の検討課題について

（2）意見交換

5 議事概要

（1）今後の検討課題について

【吉沢主査】

- 「高度な映像配信サービスサブワーキンググループ」第1回を開催する。はじめにサブワーキンググループの検討課題について事務局から説明いただく。

【小笠原情報通信政策課長】

- 資料1-2に掲げた検討課題のうち①の対象とする技術については特段異論がないと思うため、主として②から⑥の議論となる。今までの意見交換においても、②から⑥はいずれも重要

という認識の下、⑥のコンテンツについては、特に配信を受ける側の映画館などの運営者にとって、8Kで利用者から料金をとって事業が運営できるかという点が極めて重要との指摘をいただいております。本会合では映画館運営者にもご参加いただいております。

- ビジネスユースなのか、文化・芸術なのかという視点、主体をどうするのか等については、並行して議論していかざるを得ないが、これらは密接不可分であり、②から⑥のいずれが抜けてもアクションプランにならない。
- 28年度の概算要求については、2020年社会全体のICT化推進に向け「都市サービスの高度化」の実現をめざす予算として「ICTを活用した都市機能高度化推進事業」を8億、4K・8K技術の利活用という観点から「映像等近未来技術活用促進事業」を2億の要望枠として要求。

(2) 意見交換

【小笠原構成員】

- NTTに期待されている部分として、高速のネットワークの提供、プラットフォームの部分などと思うが、必要性含めしっかり議論していきたい。
- 懸念される点は技術的にも間に合うかという点とタイミング。フリーに先行導入地域が選べるわけではないと認識。制約の中スピーディに進めることを重視して議論していきたい。

【吉沢主査】

- 場所については、4K・8Kのコンテンツが上映できる場所をテンポラリーに作るのか、あるいは将来を見据え、常設的なところを開発するのかは議論になる。ただ、来年度の場合、テンポラリーでやる方が可能性として高いと思う。
- 4K・8K映像や立体映像をご覧いただいた方の反応を踏まえ、ビジネスの可能性、あるいは公共的な観点からサービスが根づく可能性について検証を行い、次の段階に本格的に乗り出す流れになると思う。

【廣田構成員】

- 2、3年ほど前から4K・8Kのコンテンツに取り組んでいる。いかにしてコンテンツを提供できるかという点について、パブリックビューイングあるいはライブビューイングで意味合いが変わる。また、ビジネス利用なのか公共利用なのか、権利的な部分から、使われ方、使う場所、出し方によって相当影響する。公共的に使うにせよ、ビジネスにするにせよ、さまざまハードル等はあるが協力させていただきたい。

【吉沢主査】

- ライブビューイングは、様々なコンテンツホルダーがコンテンツを提供し、通信回線あるいは衛星回線経由で全国の映画館に対して有料展開する取組を既に開始。有名なアーティストの音楽ライブやスポーツ、ドラマ、ドキュメンタリーなど、毎週のように行われているが、基本的には2Kであり、4Kは採算が合わないと聞く。コンテンツを作る側では、4Kで作る割合が今後増えていく中、4Kで撮影したものは4Kでご覧いただくのが視聴者にとってもコンテンツ製作者にとってもベスト。今後どのようにPRして、対価を支払って視聴いただける形にするのが大事。
- パブリックビューイングは、一般的に無料。NHKでは、年末の紅白、ワールドカップ、オリンピックなどで4K、8Kに取り組んでいる。今度の週末、スポーツイベントを渋谷の放送センターで行うが、85インチ8Kを展示する予定。大画面で4Kないし8Kだと、普通のテレビからテニス中継を見るのとは違う体験をできることをより多くの人に見ていただく機会を提供したい。

【橋本構成員】

- 4K放送は、本年3月から専門チャンネルを2チャンネル立てて運用しており、Next TVフォーラムのチャンネルも含めると合計で3チャンネル体制で提供。また、Jリーグ中継を4Kで収録し、ライブ伝送する生中継を積極的に実施しており、その他、音楽ライブなどをスポット的にも取り組んでいる。
- ライブビューイングやパブリックビューイングに関しては、2Kベースでは既に全国で100館程度配信。本年の3月23日、陸上自衛隊の富士の総火演を伝送したケースについては日本全国の16の映画館に配信したが、このうち新宿にある1館に対しては4Kで伝送を実施したところ、満席になり、非常に盛り上がったという実感がある。
- ライブビューイングやパブリックビューイングといったB to Bの取組は非常に有意義である。ビジネスなのか公共なのかという点については、各社の諸事情があると思うが、まずは視聴される方が楽しめるかどうか原動力になる。極端なことをいえば、競技会場に行くよりもライブビューイング会場の方が価値がある、例えば、リアル感がある、連帯感がうまれるというような、映像表現だけでない楽しみ方が実感できれば存在する価値が出てくる。
- デジタルサイネージWGで江口構成員から説明があったように、過去の事例とかノウハウについてはデジタルサイネージコンソーシアムがお持ちであり、そちらとも連携しながら、限られた時間の中、最短距離で効率よく検討を進めていく必要がある。

【吉沢主査】

○ ニッチなところにお金を出すという実感は我々にもある。例えば、2Kのライブビューイング『おかあさんといっしょ』のファミリーコンサートを毎年開催しているが、完売。できれば会場に行きたがいが、遠くていけない人たちが映画館に子供を連れて楽しむことが実際に起きている。有名なアーティストのライブ、ワールドカップ、オリンピックなど、上手に拾い上げて、ビジネスとして成り立つようにすることも今後考えていく必要があると思う。

【小金澤構成員代理】

- 本日、ある自治体において、2年ぐらい先に当社がオープンする劇場の街づくりの観点から、連携強化していくことを目的とする協議会が開催された。8Kの話もあり、当社としても前向きに取り組んでいるところ、行政の皆さんも前のめりで検討していきたいという声があり、関心が非常に高いことを実感。
- 彼らがしきりに言うのは、2019年のラグビー、2020年のオリンピックに向けて何かしたいということ。地域の方々には、本物を見たいというのが本音でありながらも、経済的かつ距離的な事情で行けないの方々に対して、街中にある映画館で体感できること、リアルに体感させることへの期待が大きく、我々のミッションの一つと実感。様々課題があると思うが、このSWGの中で議論を深め前進させたい。

【吉沢主査】

- 多くの自治体は、今回のロンドン大会のパブリックビューイングを実施。時間帯が深夜であるにも関わらず、市の体育館をパブリックビューイング会場にして実施したところ、大量の人が集まった。知らない人同士でもその場で仲良くなり、たまたま大逆転勝利をしたために余計盛り上がった経験がある。ライブビューイングの会場では、テレビで見る、競技会場で見るとは違ったコンテンツの楽しみ方について可能性がある。
- このサブワーキングのミッションは、2020年に本番を迎えるにあたり、2019年のラグビーワールドカップをテストケースにし、それまでの間に決めるべきことを決め、テスト・改善を行い、2020年には世界中を驚かせるプレゼンテーションができるといいと思う。

【安井構成員】

- 4K・8K、生中継といったライブビューイングを興行として提供。我々のハードルは、4K・8K映像を生中継で受ける機材がないこと。スカパーさんなどに4Kの実験やっていただいた

際も機材を持ち込んでいただいたのが現状。

- 欧米では、プロジェクターをリースしている状況。業界全体のデジタル化を進めるため、そういう運用方法を業界が選択。ただ、リースについては契約年数や更新についての課題が映画館側にはあることを認識いただきたい。
- 映画館のデジタル化が進んだきっかけは「アバター」という3Dの映画。デジタル化しなければ商売に参入できない状況になった。これが自己投資、業界を巻き込んだ新たなスキームを作るときに必要な。到達点と実現方法を立体的に考えながら進めていきたい。

【吉沢主査】

- 設備については、開発が進み、安いものが出てくるが、一旦放送設備として入れたものは10年くらい経たないと減価償却できないため、どのタイミングで設備を更改するかは経営判断として難しい面がある。
- 2020年のオリンピック・パラリンピックがきっかけになるが、パイロットケースとして、先行投資しているものがあれば、雰囲気として共有され広まっていくのではないかと。

【若井構成員】

- 我が社はデジタルサイネージにニュースを販売していたというこの中では珍しい存在。
- 電車、空港ロビー、メトロなど、様々な場所に設置されるデジタルサイネージに向けて広範囲に営業。その時わかったことは完全に垂直統合型のビジネスモデルであったこと。ディスプレイから配信システムまで、フォーマットもばらばら、そのたびにエンコードし直すなど非常に煩雑な作業となり、システムのつなぎ込みのための改修が発生。
- 今後、4K・8Kのサイネージに関して統一された規格が存在しないと個別の垂直統合の中で閉じて終わってしまうおそれがある。デジタルサイネージのワーキングでは災害情報を広域に流すという観点から規格統一という話があったがこのサブワーキングでも共通の課題。
- 二条城の襖絵の展覧会を開催した際、4Kで庭の映像を撮影したところ、横長で春夏秋冬を再現するのに非常に効果的。京都にいけない、あるいは入れないところの映像、あるいはこうしたコンテンツを教育現場などで使ってもらうのも効果的。美術展を開催している立場から可能性は極めて高い。

【吉沢主査】

- 公民館や美術館、市立や公立のものも含めて、4K対応シアターが増えてきている。
- ただ、上映できるコンテンツがなく、稼働率が低い。4Kコンテンツを、あまり高くない料

金で提供、体感するという意味合いを広めていく必要がある。

- また、ライブで受けられるところは極めて少なく、一旦ストックしたものを再生するのがほとんど。4Kライブビューイングができる体制にするのか、あるいは再生でもいいので4Kを体感できるようにするのかなど、ビジネス的な展開するにしても、教育・文化的な体感をしていただくという公的な展開を考えるにしても、そこまで含めてこのサブワーキングで検討していただきたい。
- 今年度中に、どこで、だれが主体となって先行導入をやるのか案を示してデジタルサイネージワーキンググループに報告しなければならない。事務局から示された検討課題については、次回以降意見交換させていただくので、それまでに構成員において検討を深めておいていただきたい。来年度以降、将来的にはビジネスとしてレガシーとして展開できるような方策を検討していきたい。

【小笠原情報通信政策課長】

- ただいま主査からお話のあった課題について、次回会合を11月に開催し、改めて議論したいので、よろしくお願ひしたい。

以上